



プロバスだより

2013年10月10日発行

第 215 号

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

編集・発行：情報委員会

東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

気軽に交流を楽しむクラブ

2013～14 テーマ

―優れた運営の仕組みを継承し、会員活動をより楽しもう―

第 215 回例会

日 時：平成 25 年 9 月 12 日(木) 12:30～14:30

場 所：八王子エルシィ

出席者：67 名 欠席者 4 名 出席率 94.4%
(会員総数 71 名)

会食とハッピーコイン披露

恒例により先ず会食があり、合わせてハッピーコインが披露された。

1. 開会 戸田例会委員長(司会)

開会宣言と会議資料の確認。例会次第特記事項に次回例会に野外研修費 5,000 円徴収を追加。

2. 挨拶 荒会長



皆様こんにちは。東京が 2020 年の「オリンピック・パラリンピック」の開催都市に決定したとの 9 月 8 日の報道に、東日本大震災以降ずっと心にあった靄が晴れていくような感動を覚えました。

特にオリンピックの「聖火リレー」は、岩手～宮城～福島～東京のコースを計画しており、津波による傷痕が残る三陸沿岸や、原発事故のあった福島の浜通りの地域を走り、復興した東北の姿を世界に発信するというプランです。被災地の復興をオリンピックと結びつけた関連事業で、7 年後には完成させるという明確な目標を掲げたところにオリンピックの意義があると思いました。

理事会の報告ですが、平成 27 年 10 月 18 日に迎える 20 周年記念の事業に向けて、勉強会を発足することに致しました。会員各位の想いも、所属の委員長さんを通じて伝えて頂きたいと思います。

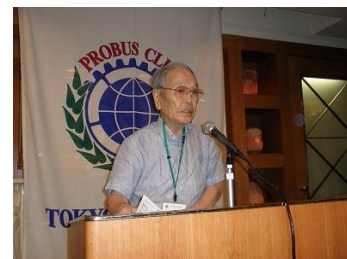
3. バースデーカード贈呈

今月も池田会員手作りのバースデーカードが、荒会長より(左から)吉田、馬場、岡部、小林(貞)、野口の各会員に贈呈された。



4. 卓話 “危機管理について”

渋谷文雄



今日は個人の周辺に常にある危機から、各種集団(学校・自治体・企業等)や国家の危機に至る問題を、対処事例を挙げて

てご報告したいと思っていましたが、限られた時間なので、私が最近痛感している喫緊の課題として「国家の危機 5 項目」を選び、対処すべき所感を申し述べ諸兄のご批判を得たいと思います。

(1) 尖閣諸島を巡る日中の国境紛争について日本は「日中間に国境問題は存在しない」という立場を譲らず、中国は「歴史的考察に因っても明らかに中国固有の領土である」と言って一步も引かず、尖閣周辺海域では一触即発、武力衝突の危機に直面しています。

私は、中国が尖閣の領有権を主張しながらも『棚上げでいい』というのは日本の実効支配を認めるに等しい事ですから、これによって互惠関係が回復されるならば、日本外交の成功だと思っています。「小異を残しても大同につく」と言う中国人の哲学を理解すべきです。危機管理とは危機を取り除く方策を言います。武力衝突の愚を絶対回避すべきです。今、「遠い親戚より近くの人」と言う諺は日本の為にある言葉だと思っています。

(2) 原発事故による放射能汚染の危機は2年半の歳月を経ても、未だ収束の見通しすら定かではなく、東電と政府の責任分担も明確とは思われません。安倍首相は、危機はブロックされ、安全は保障されていると世界に公言して憚らない破廉恥な男になりさがっています。至急政府の全責任において緊急の対策を講じなければ国家の信用を失うばかりです。

(3) 国家の財政は1,000兆円を超える借入金を抱え、実質的に破産状態にあると言っても過言ではない状況です。然るに来年度国家予算に対する各省庁や族議員の概算要求積み上げ額は100兆円を超える勢いと報道されています。「入るを凶る」景気回復策としての財政投資や金融緩和策も重要ですが、原発事故復興財源が悪知恵の役人と族議員によって信じがたい事業に横取りされている現状を知るにつけ、役人と族議員の数を半減する大胆な方策を提案したいものです。

(4) 安倍政権誕生以来、テレビはもとより週刊誌に至るまで、マスメディアの新体制に阿る姿勢の急変には驚くばかりです。今後、政権のマスコミ対策は一段と強化され、公告出版への圧力は、政権への迎合記事と知性を麻痺させるテレビ番組を更に増加させる状況となりましょう。マスコミの力の怖さは戦時中、嫌というほど知らされました。その力は軽視出来ません。国民の真実を知る権利が阻害される危機だと思います。憲法改正の意図も含め真実を見抜く力を磨きたいものです。

(5) 安倍政権になって平和憲法改正の動きが急です。戦後68年、わが国は現憲法に拠って平和を維持し高度成長を成し遂げてきました。今更何で改正が必要なのか、その意図する所を明確にする必要があります。自民党改正案の文言改定も含む最終案の詳細は未だ明らかではありませんが、……安倍首相が言う『日本を取り戻す』と言うことは、軍事国家を支えた帝国憲法にまで逆戻りすると言うことなのではないでしょうか？天皇を元首にするとか、国民が大事に守ってきた九条を改定し、国防軍を編成、集団的自衛権を容認するとか、私は日本が平和国家の基本的姿・形を変更しようとする「戦後最大の危機」を迎えていると思っています。とりわけ21条の……集会・結社・表現の自由……等についての自民案は……公益・公の秩序を害するものは認めない……とあります。誰が害するものと判定し認めないのか？戦前の治安維持法に似てきました。他にも特定秘密保護法の提案等、昭和のはじめの雰囲気だんだん似てきたように思い

ます。更に憲法改定条件を定めた96条の三分の二条項を二分の一に改悪しようとしています。アメリカやドイツなど先進諸国でも憲法改正は三分の二を適用していますし、アメリカの州法はより厳しい四分の三を適用しているのです。時宜にあわせ憲法を改正する事があってもよいと思いますが、自民党の改定の狙いには絶対反対しなければならないと思っています。

私の友人に裁判官をしていた79才になる男性がいます。以下は彼からの手紙に対する返信の部分ですが、プロバスの諸兄宛として一読して頂ければ幸いです。

「……憶へば敗戦から68年、日本人の死亡原因から、戦死とか戦病死等戦争による死亡者は皆無。戦争未亡人も死語となりました。これは「誇るべき国のあり様」であったと思います。しかし急変する昨今の世相動向を見聞きするにつけ、遠くない将来、国防軍とやりに引っ張られるかも知れない孫やその仲間たちから、親や祖父母たちは……平和憲法をなぜ守ってくれなかったのか……と恨まれる事のないよう、具体的な行動を考えなければならぬと思っています。よい智恵があつたらお知らせ戴ければ幸いです。……」

5. 幹事報告 馬場幹事

(1) 理事会の報告

①5月臨時総会における理事と会計監査の選出・承認後のプロセスについて；会則、運営細則に照らして見直す必要性等の議論を開始しました。早期に結論を得たいと考えています。

②20周年記念事業について；10周年と15周年の記念事業の経過を調査報告し、今年度の進め方を副会長と幹事が検討することにしました。

③クラブ内の「宇宙の学校」の組織の検討；「宇宙の学校」から吉田運営副本部長と永井事務局長、理事会から副会長と幹事が参加してワーキング・チームを作って検討することにしました。2月に会長と下山運営副本部長に報告をする予定です。

(2) 第34回八王子いちょう祭り祭典委員会からの協賛依頼の件

会長宛に届いた協賛依頼を紹介しますと、今年のいちょう祭りは11月16日(土)・17日(日)に開催されます。地域奉仕委員会で推進して頂きますが、会員の皆様の積極的な支援・参加をお願いします。後ほど祭典委員会メンバーの佐々木研吾会員から、要点を紹介して頂きます。

(3) プロバスクラブバッジの件

発注していたバッジを 20 個入手し会員委員会へ移管しました。今後の実費購入価格は 600 円から 700 円に改定させていただきます。会員委員会での対応をお願いします。

6. 委員会報告

(1) 例会委員会 戸田委員長

出席状況は冒頭記載の通りです。名札のない方がおられましたら申し出でて下さい。作ります。

(2) 情報委員会 田中委員長

①プロバスだより 214 号ができました。ご意見を頂戴したいと思います。投稿はお陰様で順調です。今年度は記録を簡潔に、寄稿を多く記載する予定です。

②ホームページをご覧の会員に挙手して頂いたところ 50%弱でした。当会発足時からのプロバスだよりが載っていますし、生涯学習サロンも 1 回から 17 回まで載っていますから是非一度ご覧になって下さい。なお同好会案内については見直し修正を各同好会に依頼しています。よろしくお願いします。

(3) 会員委員会 荻島委員長

①山下安雄会員が体調不良のため 8 月 31 日で退会となりました。よって現在会員総数は 71 名です。

②会員名簿の最終ページを再度訂正します。

③会員バッジについて、先ほど幹事から 700 円という話がありましたが、会員委員会としては、すでに依頼を受けた分についてはそのまま 600 円とします。

(4) 研修委員会 河合委員長

野外研修のご案内がお手元に配布してあります。実施時期は 11 月の例会を兼ね 11 月 14 日です。目的地は東京都内で、午前中は東京都の視察船で「ごみ最終処分場」をはじめ、東京湾からの東京の風景を楽しんでいただきます。午後は昨年 4 月に新築オープンされた新歌舞伎座、同じく昨年 10 月に創建当時の姿に復元された新東京駅の見学等を予定しております。

参加の申し込みは、船の定員枠の関係から今日お帰り迄にお願いします。楽しい移動例会になりますよう多数のご参加をお待ちしております。

(5) 地域奉仕委員会 内山委員長

先に実施したアンケートの結果が別紙のようになりましたのでご一読願います。この結果問題になりますのは、肝心の話し手が減少しており、苦慮しています。このままですと次回のサロン開

催が厳しくなりますので、各会員から話し手としての立候補を特にお願いします。

7. 交流担当 浅川理事

日野、多摩のクラブ間でスケジュールの交換をプロバスだよりで行っていましたが、ホームページでもできるということで検討しましたが、現時点では不備があり、あと 1 年ぐらいは従来どおりプロバスだより等で情報交換する事になりました。又他クラブからのプロバスだよりが来ているので、ご希望の向きには回覧します。

8. 「宇宙の学校」報告 下山委員(運営本部長)

先月報告しました通り 7 月 28 日に「宇宙の学校」記念事業が国分寺会場で行われ、引き続き 8 月は 25 日(日)に相模原で「宇宙の学校」5 周年記念事業が行われました。

吉田会員と私が参加してきました。記念講演と宇宙の学校を実践している方々のオープンディスカッション及び記念スクーリングでした。実践している処それぞれに課題を解決しつつ発展しているように感じました。私から簡単に八王子の取り組み状況を報告しました。

さて 9 月になって夏休みを終えて、八王子「宇宙の学校」スクーリングを再開しています。9 月 7 日(土)に本部会場の第 2 回スクーリングを行いました。9 月 14 日(土)は八王子北高校会場の第 2 回スクーリングです。(詳しくは有泉運営本部情報担当から後述)

「宇宙の学校」第 2 回スクーリング報告

運営本部情報担当 有泉裕子

本部会場は 9 月 7 日(土) 12 時 30 分より教育センターにて、子供・宇宙・未来の会 KU-MA の山下法昭先生による、スクーリングテーマ①「熱気球を上げよう」②「ペーパースチロールで飛ぶ物を作ろう」のガイダンスにより始まりました。

分館の広い講堂の床にブルーシートを何か所も敷き詰め、熱気球づくりを開始、子供たちとその父母が、お世話係の学生ボランティアや、プロバスクラブとその他のスタッフと一緒に、熱気球づくりから始まりました。十数人が輪になって、大型のポリ袋 4 枚をつなぐ作業を熱心に行ないました。作業の結果がどうなるか、みな期待を持ちながら、また完成間近になると熱気球に絵を描いたり、熱風を取り入れる口の作業では完成間近のため、みな目を輝かせていました。

熱気球の上昇実験は体育館分館で行われ、子供たちのキラキラ輝くまなざしは、ガスバーナー(ランチャー)で膨らむ気球に釘づけです。カウントダウンが始まると歓声がひとときわ高まり、すべての気球が成功し、天井に向け飛び終わった瞬間、万雷の拍手でした。

(教育センター体育分館)



教育センターに戻り、次はペーパースチロールの飛行体作りです。山下先生のご指導で飛行機、トンボ、ハートなどの形に重しのコルクをつけ各自何度も軌道修正させながら飛ばしておりました。

共同で作成した実験テーマがその結果としてどうなるか…理科の楽しさにより、興味や関心の芽が育つことが大いに期待されるスクーリングでした。

(北高会場)



北高会場は9月14日(土)12時30分より視聴覚教室で、生物化学部の部長の司会のもとで始められ、途中JAXA(宇宙航空研究開発機構)の新型ロケット「イプシロン」の打ち上げの中継を放映してくださり、皆でカウトダウンをしながら見ました。子供たちには印象深く残ることと思います。

スクーリングテーマ①「葉脈標本でしおりを作

ろう」②「紙トンボであそぼう」のガイダンスは、過日、宇宙教育セミナー修了者の我がクラブのホープ下田泰造会員が担当され、あざやかなガイダンスのもと、思い思いの絵や文字を描いた、ラミネート仕上げのしおりが出来上がり、子供達は満足そうでした。また紙トンボも紙の形、羽の曲げ具合等により、飛び方がいろいろになることを親子で確認、楽しみながら回し飛ばしていました。最後に KU—MA 山下法昭先生のガイダンスにより③「ペーパースチロールで飛ぶものを作ろう」は切り方、おもりの大きさ、位置により、飛び方がいろいろになることを工夫しながらの親子作業でした。親子と一緒に作業し、工夫し、学び、楽しんでいる様子を見ながら、これが「宇宙の学校」のねらいであり、将来いろいろなことを一生懸命できる子供になってほしいものだと思います。

(スクーリング風景)



9. 同好会報告

(1) ゴルフ同好会 米林会員

多摩地区合同コンペは10月24日に行われますが、参加人員は八王子が13名で他の地区は現在まだ未定。前回は21名なので今回は22,3名の予定。

一方八王子クラブの単独ゴルフ会は11月22日GMGゴルフ場で行う予定です。

(2) 囲碁の会 下山会員

恒例の一泊囲碁大会を10月30、31日に開催します。多摩も参加しますので盛大になると思います。未入会の会員の参加も歓迎いたします。

(3) 美術鑑賞会 池田会員

別紙案内の通り行いますので多数参加してください。特に田中美術館は新設です。

(4)お茶、歴史、写真、麻雀、俳句、旅行の各会は何れも報告事項なし。

10. その他

(1) いちょう祭りについて 佐々木(研)会員

今年も第34回いちょう祭りが11月16,17日に開催されます。祭典委員会の河瀬会長より当クラブに例年の通り協力要請がありました。いちょう祭りの始まりから今までの経過について説明しますと、1979年(昭和54年)に当クラブの大野聖二会員が提唱して、このいちょう祭りがスタートしました。(詳細は、当クラブ創立15周年記念誌101頁に掲載)今年は何々の催しに加えて神輿、バントアラーが加わって近隣市町村でも有名になっています。

私は祭典委員会の副会長を仰せつかったので、当クラブに協力要請する立場になっています。要請の内容は次の通りです。

①主会場中央の受付、案内係を11月16,17日午前3人午後3人計12人の派遣要請

②11月14日の当クラブ野外研修時にいちょう祭り通行手形の販売要請(祭り総予算2,500～2,700万円 市補助500～600万円 残り寄付等自弁)

(2) 東京多摩国体スポーツ祭東京2013 塩澤迪夫

50年ぶりの国民体育大会(詳細は先月号に掲載)が開催されます。9月29日は八王子市役所をスタートして奥多摩町の水とみどりのふれあい館がゴールの、自転車ロードレースが行われます。

私は八王子地区広報副委員長に指名されました。お配りしたクリアファイルは一般には配布されているものではありませんが、八王子開催日程が全部載っていますので参考にしてください。50年ぶりの国体です。応援よろしくお願いします。

11. プロバスソング斉唱

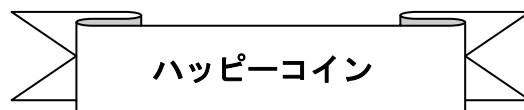


12. 閉会の挨拶 土井俊玄副会長

毎回熱心な会議、ありがとうございます。昨今

は異常気象で、豪雨、水害等加齢の我々にとっては大変なことで、一層身体に気をつけましょう。

先ほどサロンの話し手が少なく(自薦7他薦7計14名)サロンの成立が危ぶまれるということですが、積極的に話し手として申し出るようにしましょう。では本日はこれで閉会です。



ハッピーコインの紹介 土井俊玄副会長

◆オリンピックが東京に決まりバンザイ。2020年迄健康年齢を引きあげました。飯田富美子

◆おめでとうございます。2度目の東京オリンピック開催が決まりました。その頃私は85才ですが、元気で2回目の東京オリンピックを楽しむつもりです。岡部 治

◆中学3年から続いている男声コーラス(六声会)の創立64周年記念公演が12月15日に決定しました。(新宿文化センター) 石田雅巳

◆私の第3の故郷である宮崎県延岡から、今年の夏の甲子園で何と延岡学園が準優勝しました。私も急遽かけつけ、準決勝と決勝をアマちゃんのテーマにのってカー杯応援してきました。田中信昭
◆8月の高校野球決勝“前橋育英と延岡学園”の試合を“ドキドキしながら”も楽しみました。激しい暑さの中、初出場で健闘して初優勝を果たした前橋育英アッパレ! 阿部幸子

◆2020年の東京オリンピックが決まりました。おめでとうございます。ガンバレニッポン。

宮崎浩平

◆ボケ防止麻雀会で2連勝しました。去年に続いて2度目の3連勝を目指して、がんばるぞー。

東山 榮

◆8月24日小田原市鴨宮^{カモノミヤ}にある、巨櫓^{オオケヤキ}の居、岩瀬邸^{イセ}にて、朗読と音楽・男声コーラスコンサートに出演。新たな取り組みも無事終わりました。

武田洋一郎

◆本日、バースデーカードを頂戴します。ハッピー! だが、馬齢を重ねて遂に「後期高齢者」なり。「亀の甲」以上の「年の功」はと思わず自省。

馬場征彦

◆オリンピック開催地、東京にきまりハッピーである。荻島靖久

◆2020年東京オリンピック決定。本当の景気回復はこれから。竹内賢治

◆ 今月 70 才の誕生日を迎えますので記念に長崎・釜山のクルーズを楽しみに行って来ます。横浜に帰るのは月末に。 野口浩平

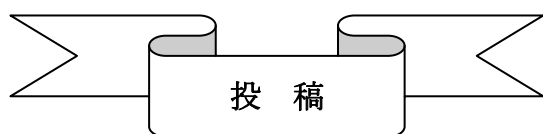
◆ オリンピックが東京に決まっておめでとう。明るくなる日本にして行きましょう。 中野義光

◆ 息子と孫 2 人を連れて北京・西安・上海を訪ねて来た。旧友や関係友好団体の大歓迎を得て友好関係を強固にしてきた。 渋谷文雄

◆ いろいろな見方はあろうかと思いますが、オリンピック開催決定心から喜びたいとおもいます。 佐々木 正

◆ 後期高齢者ですが、次のオリンピックは絶対に観てやるぞ！ 荒 正勝

◆ この猛暑を大きな病気もなく、ここまで元気でこられて、幸せです。 土井俊玄



千人同心と興岳寺について(後編) 土井俊玄



それでは家康がこの落城直後の八王子城下に小人頭と小人達を駐屯させた目的はいかなるものだったのでしょうか。「桑都日記」や 19 世紀になって提起された「新編武蔵風土記稿」によれば、第 1 に

関東の甲州口への防備・警護の任、第 2 に落城後の八王子城周辺の治安の維持、その為の城下周辺の見回りの為でした。そしてその書の中に八王子城下に居住していた期間が 4 年余りであったことも記されています。

さて次はいよいよ千人町への移住の話です。千人の同心となったのは慶長 4 年(1599 年)のことなのに千人町と云う町名が登場するのは、元禄 2 年(1689 年)の事ですので、同心達が八王子の新宿へ移住した時は千人町と云う町名はなかったのです。移住の年は「桑都日記」によれば文禄 2 年(1593 年)春正月とされています。その時の同心の移住人数は千人ではなく 500 人程度だったのかもしれない。その後についても寛文 7 年(1667 年)に、千人町には頭が 10 人、同心が 100 人居住していたという記録があります。ですから千人町には千人頭と組頭や主なる同心が居住し、平同心の多くは周りの農村地帯に散在していたのであり、

遠くは三鷹市や青梅市、飯能市、川崎市等にも同心は居住していました。

次は千人同心の身分の事です、千人頭だけは旗本身分で恒常的な幕臣として認められていましたが、組頭以下の同心達は近世になって兵農分離の社会でありながら、半士半農の階層として存在したのです。そして日常的には農業を営み、一般の農民と同じように年貢を納入するのですが、同時に幕府から扶持米・切米を給付されるときには武士としての「役」を担う存在でもありました。このような半士半農の階層は江戸時代を通じて各地でみられ、一般的には「郷土」と呼ばれていたようです。

「郷土」すなわち村に居住する千人同心と農民との間には論争が起こっています。千人同心は村にあっては村方(地方)三役の支配を受けており、全く農民と変わらなかったらしい。しかし千人同心は武士であることを強調したがるのに対して、名主や組頭・百姓代は、千人同心とて村で生活している限り、自分たちと同じ百姓だと主張して譲らなかったのです。一つの例で云えば「宗門人別帳」へ農民と同じように名前が記されているのですが、千人同心達はこれに苗字を記載して、一般農民と自分たちを区別しようとしたことが争いの原因でした。また「目安箱」には一般御家人と同様投書は禁じられておりました。このようにある時は武士の扱い、又日常的には農民の扱いと、千人同心にしてみれば自尊心を傷つけられているように感じられたこともあつただろうと容易に想像がつかます。武士の服装や帯刀が許されるのは日光勤番などの「お役」の時だけで、それも村境から出て、初めて武士の格好をすることが許されたのでした。

武士としての「お役」つまり役割は、先にも述べました通り、家康の関東入国直後の甲州口への警備や、八王子城落城に伴う治安の維持、秩序の回復等、政治・軍事的役割が大きかったのですが、元和元年(1615 年)大坂夏の陣で豊臣氏が滅亡した後は、平和な落ち着いた社会になりつつありました。そこで江戸幕府は千人同心に新しい役割を与えました。その一番代表的なものが「日光勤番」でした。この時は公務として堂々と武士の格好が出来、武士の身分となれたのでした。この職務は開幕の祖である家康及び家光を祀る日光山の防備であり、具体的には日光の防火役即ち火の番でした。この任務は慶安 5 年(1652 年)から幕末まで続きました。

最初は千人頭2名とそれぞれの頭が指揮する組の50名ずつ、合計100名（千人頭を入れると102名）で構成されましたが、同心50名の中には組頭が5人おり、5組となるので、合計10組で50日間を勤務したのです。その後員数の変遷はありましたが、最終的には寛政3年（1791年）4月老中松平定信の命によって千人頭1名と同心50名となり、期間は半年交代とされました。この改正は寛政の政策の一環として行われたもので、その後幕府が崩壊する慶応4年（1868年）まで変更されることはありませんでした。

八王子から日光までの経路はどうだったのでしょうか。初期にはまず江戸に向かい千住を通して宇都宮経由で日光に入るものでしたが、その後変更があり江戸へは向かわず八王子から拝島へ入り、松山（現埼玉県松山市）、佐野（現栃木県佐野市）を経て日光へ至る経路になりました。この全行程は39里30丁（約156km）で、行きも帰りも21継ぎ3泊4日の道のりでした。この日光勤番は江戸時代を通じて何回も行われていたかと云うと、217年間に1,030回も実施されたのでした。

興岳寺境内に顕彰碑があります。昭和41年4月10日に建立され、碑文は時の市長植竹園次氏の撰で、書家であった菅沼香風氏の書であります。この顕彰碑と日光東照宮正門前の顕彰塔は、世界遺産としての国際的至宝を守り通した陰の功労者である「八王子千人同心」の名を深く記憶にとどめるものであります。千人同心頭のどういう行為・行動が顕彰されたのか、私の駄文よりも興岳寺境内の碑文の方が良いと思うので碑文の方を紹介します。

[八王子千人頭石坂彌次右衛門義禮顕彰碑]

石坂彌次右衛門義禮は八王子千人頭の一人である。代々八王子に住み、初代官兵衛森通から11代にあたる。文武両道に通じ、資性温厚、衆望を集めていた。千人同心は徳川家康が関東入国の時に甲州口の警備として設けられたもので、幕府成立後はさらに日光勤番として承応元年（1652年）から幕末まで217年の長きにわたり日光山内の警備と防火にあたった。慶応4年（1868年）戊辰の役に際し、板垣退助の率いる官軍は進んで日光に迫った。この時彌次右衛門は部下と共に在勤中であって、特に戦火が日光山内に及ぶことを憂いかにして安泰に守るかと心を砕いた。そこで輪王寺宮と山内首脳らに相計り、あえて官軍に抵抗することを止め、遂に無事戦禍から救うことが出来た。今日世界の名宝たる日光は、こうして全き（何ら

損傷なく保存すること）を得たといわれている。あらゆる危難を排し、辛くもその念願を果たし得た彌次右衛門は、急ぎ同年閏4月10日部下と共に八王子に帰った。しかし当時の八王子は、恭順か抗戦かの論議に沸き立ち、戦わずして帰郷したことを責め、徳川家の恩に背くものと激しく非難した。こういう情勢の下では彼の折角の苦心も、大義の信念も遺憾ながら理解される余地はなかった。しかし彌次右衛門あえて多くを語らず、成否は歴史に任すと責めを一身に負い、同日深更千人町の自邸において見事自刃して相果てた。時に60歳。介錯は79歳の叔父恒兵衛徳誼が当たり、遺体は菩提寺興岳寺に葬られた。

彌次右衛門の死後99年、今やその壮烈にして崇高な精神は多くの人々により正しく理解され、その徳をたたえられてここにこの碑が建てられたものである。

昭和41年4月10日 八王子市長 植竹園次撰
菅沼香風書

まだまだ書き足りないところが沢山ありますが、今回はここで筆を擱きたいと思います。（完）

人生って不思議なものですね 八木啓亮



セレンディピティー（偶然の幸運に会う事、偶然を運にする力）という言葉があります。大げさに言えばニュートンがリンゴの落ちるのを見て万有引力を発見した様なことです。

昭和44年（1969年）の暮れのことです。当時文化放送グループに籍を置いていた時のことです。上司から渡辺美佐さんが君に逢いたいと言っているので午後8時に「渡辺プロ」行ってくれと突然言われました。普通の社会では午後8時と云えば就業時間も終わっている時間です。仕方がないので8時に指定の有楽町にある三信ビル2階に行きましたところ、煙草で煙った部屋に10数人が声高に喋っている中に、テレビで見かけた美佐さんがいました。「あなたが八木さんね。明日からこちらに出勤してくれるわね。どう。」「エッ（ジェジェ！）！いったい何をするのですか。」「あなた日本万博って知っているでしょう。そこのポピュラー音楽部門の予算を作ってもらいたいよ。今の予算では大赤字なので、黒字予算に組み直してもらいたいよ。」「その仕事をするとならば万博はタダで見物できるのですか。」「勿論よ。」その一言で浅は

かにもYesを言ってしまいました。

どんな企画があるのかも分からず引き受けてしまっ、帰りの電車の中でどうしようと考えたが後の祭り。翌日より翌年万博ホールを中心に催される全企画の内容を精査し始めました。有料企画26、無料企画38、その他に水上ステージ企画、移動芸能企画などを含め90余りの企画が催される事になっていました。それらの予算管理と、総務・経理の総括責任者の仕事が始まったのです。大阪勤務です（ア～しまった）。

有料企画のオープニングは、サミー・デービス Jr ショウで始まりました。セルジオ・メンデス、G・チンクエッティなどの出演するサンレモ音楽祭。スタンリー・ブラック、ダバダバダで有名なシングル・シンガーズ、フィフス・ディメンション、ブラザーズ・フォー、アマリア・ロドリゲス、そして最後はM・デートリッヒ、と当時のポピュラー界が皆大阪に引っ越してきた感じです。中でも、かのマイケル・ジャクソンが12才で「ジャクソン・5」のリードボーカルとして歌っていましたのも万博の思い出です。後のマイケルを髣髴させるリズム感覚は素晴らしいものでした。

最後を飾るフェアウェル Expo'70 は大御所マレーネ・デートリッヒショウです。ショウの初めは「エニシング・バット・ラブ」だったと思います。途中で突然「Lili Marlene」を歌い始めました。会場の聴衆は拍手と共に立ち上がり、スタンディング・オベーション（満場総立ち）です。歌も聴こえないほどの拍手が鳴り止みません。デートリッヒは何度も何度も「リリー・マルレーヌ」をリフレインし、何時しか会場は皆も一緒にリリー・マルレーヌを歌っていました。

舞台の袖でスタッフは皆、涙を隠そうともせず長かった183日間の感慨に耽っていました。

それから25年後、1995年横浜グリークラブが初めての訪独演奏旅行。北海に面したブレーマーハーフェンで開催される世界帆船祭に、横浜市に日本丸の参加の呼び掛けがありました。しかし、日本丸はご存じのように、MM21（みなとみらい）に繋留されていて参加する事が出来ません。そこで日本丸に代わってグリークラブが横浜代表で帆船祭に歌で参加することになったのです。斎太郎節、北海盆歌などの海に関係ある歌やブルーライト・ヨコハマなどを披露し、いよいよ最後にリリー・マルレーヌを歌いましたところ、会場からは、スタンディング・オベーション。拍手の渦が巻き起こりました。あの光景が蘇りました。

舞台の上で“人生って不思議なものですね”と、万博の想いが込み上げて声を詰まらせて、この歌を歌っていたのは私一人だったのでしょね。

（※リリー・マルレーヌは数奇な運命を辿った歌です。何れ稿を改め、書いてみたいと思います）

日本の子供たちの未来

立川 富美代



ふと見た雑誌に面白い事が出ていた。今時当然かも知れないけど、少し気になった事。日本のある全国展開をしている学習塾が、毎年行う全国統一小学生テストのトップ30名をご褒美としてアメリカ東部のコロンビア大学、ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学、イエール大学などの名門大学を中心に、10日間の視察に招待する。各大学では教授や留学生と会い、話を聞き研究室などを見学する。小学生にも関わらず、プロの研究者顔負けの質問を投げかけて来ると言う。（英語だろうか？）「iPS細胞とES細胞の違いは何ですか」「0次元は実際に存在するのですか」「カーボンナノチューブに何故電気が流れるのですか」などなど。

このツアーの中にはボーディング・スクールと呼ばれる中高一貫の寄宿制の全米屈指の進学校である学校の見学もある。日本のスーパー小学生はもはや東大、京大なんか眼中になく本気で世界のトップ大学を目指そうと言う訳か？？ちなみに数万人の全国模試受験生の中から選び抜かれた今年の30名は、男19人、女11人。この中から未来のノーベル賞やフィールズ賞受賞者が出るかも知れないし、20過ぎればただの人かも知れない。と言うような内容だった。

この記事で自分の少女の頃を思い出した。昭和20年4月私は疎開先の四国・高松の女学校の2年生になった。英語の教科書を受け取るとすぐに黒の鉛筆で消せと言われた部分があった。HeとSheだ。黒々と消してその上にHeは太郎、Sheは花子と書いた。彼とか彼女とかいう言葉はいかん。ということであるらしい。以後の英語教育は、敵国の言葉を学ぶことはない、全く授業はなく校庭でさつまいも作り、岡山の軍需工場に駆り出されている上級生に送る為であった。他の授業もある訳がなく、芋作りの他は退役軍人が来て軍事教練。匍匐前進などを覚えた。8月になり高松も

空襲で焼野が原になり、学校も焼けてしまい通うこともなく、昼間は家の中で農家の手作業を手伝い、夜田圃に出て田の草取りを手伝った。そのうちに艦載機が毎日狙い撃ちに飛んでくるようになり「グラマン」と呼ばれる小さな艦載機が地上の人を狙い始めた。

ある日、田用水の堀の周りで、数人の子供が水遊びをしていたら、音もなく超低空飛行で忍び寄り、バリバリと本当に耳をかすめて弾が飛んできた。あわてて側の柿の木によじ登り、葉隠れに飛行兵の顔を見た。戦闘帽にゴーグルの様なメガネ。こちらを睨んで撃ってくる。幸い誰も当たらなかったが、あの飛行兵の顔は今も私の目の裏に焼き付いている。不思議なことに、怖いとか死ぬかもしれないとも思わなかった。戦争も末期となり、沖縄戦のニュースや凄惨な爆弾のニュースが切れ切れに入ってくる毎日。明日もない、将来もない、一日一日が生きることが精一杯の12歳だった。戦後68年、そんな時代もあったなあと思うくらいの毎日となった。

先ほどの雑誌の記事を読んで、その後渡米した子供たちが生まれつき頭が良いのか、それとも子供の時に知る楽しい事。海や山や自然と遊び仲間を作ると言う子供らしい過ごし方をしているのか。何もしないで毎日机に齧り付いているとしたら、何という寂しい少年時代か。

学業以外に楽しいことを学ぶことが、これが社会人になった時、また長い人生の中で大きな宝物になると思うが。

東大も京大も日本の大学には眼中になくて、アメリカの有名大学に入学して勉強する子供の何%かは大学の研究生となり、豊富な研究費をもらって素晴らしい研究をするか、また大学を出てアメリカで就職して碧い眼の女性（男性）と結婚して日本には帰って来ない子もいるだろう。立派な頭脳流出ではないか。尤も留学生は現在は中国人、インド人が圧倒的に多いと聞くが、毎年視察に行き、アメリカの大学を目指している子供たちが、日本の大学で勉強し、普通の大人になって日本の為に研究し、企業を担うようになって欲しいと願うのはバアサンの勝手な願いかな。

最近では、ノーベル賞受賞の山中先生のように日本の大学を出て研究して立派な足跡を残しておられるし、宇宙飛行士も随分多く日本の大学で学んで宇宙に羽ばたいた。

神童たちの未来も日本からと願いたい。次に続く後輩たちに夢を作ってあげて欲しいと願う。

超高齢化社会の到来

杉山友一



日本社会の高齢化が叫ばれて既に久しい。そこで、改めて時代認識を確認しておきたいと思う。厚生労働省のデータを見てみよう。平成24年度の日本人の平均寿命（その年に生まれた子供が生きられる年数の期待値）は、男女共にまた伸びて、女性が86.41歳、男性が79.94歳である。女性は世界一で、男性も世界一のアイスランドの80.8歳に0.86歳差と迫ってきた。かつて、我が国がJapan as Number One ともてはやされた頃、年金設計の国策に係っていた友人の官僚高官は、関連する法律の国会通過をみて、これで日本は100年安心と豪語して酒を酌み交わしていたことを思い出す。しかし今、現実の関連諸制度は周知のとおりその真逆の100年不安の中にあり将来の見通しは全く立っていない。内閣府の資料によれば、いわゆる団塊の世代が75歳の後期高齢期に突入する2025年には65歳以上の高齢者人口は3,657万人となり、その後も2042年時点で3,878万人まで更に増加を続け、2050年には全体の4割を占めると言われている。そんな中で、高齢化の特徴の一つである認知症患者数は現在400万人を数え、加えて400万人に及ぶ予備軍の姿が直ぐそこに見える現状だ。かつては日常会話の中ではよく人生50年と言われた。翻って、1890年代の平均寿命は女性が44.30歳、男性が42.80歳で推移し、50歳台の平均寿命に至るのは1947年になってからである。したがって、今日の超高齢現象は、その後の僅か半世紀の間の出来事と言うことになる。経済大国日本の偉大なる成果であることに間違いはない。しかしながら、日本の今に目を転じれば、国の財布の中身は借金が既にGDPの2倍で1,008兆円に膨れ上がり、昨今の消費税増税論議を踏まえてさえ、経費の増加が重しとなって、巨大な借金の額が減っていく見込みは立っていない。一説には国民の側に1,400兆円から1,500兆円とも言われる家計金融資産があるから、今くらいの借金は怖くないと言っている学者もいるのだが果たしてそうか。さて、その家計金融資産については国税庁の一つの資料が大変興味深い。即ち、日本人の寿命が伸びた結果、1989年には被相続人が80歳以上の構成比は28.9%だったのだが、10年後の2008年には何と61.1%に倍増している。そして、被相続人が80

歳の場合、子どもの年齢は50歳以上が想定され、遺産は後期高齢者から高年齢者へと引き継がれていくことになり、これが資産を高齢者に偏在（資産全体の61%を60歳以上の高齢者が保有）させている大きな要因となっているというのだ。ここに来て政府はこの高齢者の家計金融資産を市場に生かそうと、孫への教育資金の生前贈与で税制優遇するなどの施策をはじめとして幾多の具体策を提示してきているが、この政策は時に両刃の剣となる。何となれば大量の日本国債の買い手は日本の銀行で、その銀行の資金力を裏打ちしているのが国民の家計金融資産だからである。

ところで、こうした何とも先が読めない時代、既に後期高齢者の立場にいる我々にはこれから先の寿命が気になるところだが、因みに、現在80歳の方にも平均で、男性で8.66年、女性で11.68年もの先の命が残っている。念のために申し上げれば、現在90歳の方でも、男性で4.48年、女性で5.86年の余命と記されている（平成21年厚労省簡易生命表）。

経済のグローバル進行が加速し、ものづくり企業の海外移転が国内の産業立地を後退させ、一方で生産年齢人口が毎年減少を続け、労働市場が困窮し、世界にだぶつくお金を元手に過度に膨張した金融ビジネスのみが元気で市場の動向を左右するような時代、果たして日本人の叡智は、これからの超高齢社会をマネジメントしきれののだろうか。恐らく、次々と問題提起されるこれからの社会事象は、未知との遭遇の連続場面となるに違いない。恐るべき超高齢社会の到来ではあるが、禍を転じて福となす老人大国万歳・幸齢社会への秘策を、このプロバスの地から語り合おうではないか。

俳句同好会便り

河合 和郎

私の一句～9月の句会から

お互いの鑑賞が白熱。様々な視点からの指摘に句論百出。これが句会の楽しみであり、勉強でもある。今月の兼題は「鬼灯」。

万里なる長城はるか霧に果つ 渋谷 文雄

万里の長城に立っての写生句。大景を活写して余りない。「万里なる」の詠嘆がいい。

火の鳥の羽を休めて夏終る 石田 文彦

今年の夏の異常な暑さを「火の鳥」と表現。感性に富んだ巧みな比喻が秀句を生んだ。

鬼灯はまた逢ひたくて灯をともし 池田ときえ

都人の優雅な恋を偲ばせる雰囲気の句。「またあひたくて」に全ての想いが。

秋光に影を移して石灯籠 立川富美代

秋の微妙な光の変化を捉えている。「影を移して」は新鮮な表現。

竿燈にたたら踏ませる風一陣 田中 信昭

今日の最高点句。作者の得意とする祭りシリーズ。一陣の風で竿燈に緊張が走った。

秋刀魚焼く四国便りのすだち添へ 飯田富美子

ふる里から届いた風味が秋刀魚の味を引き立ててくれる。季節感あふれる一句。

鬼灯の実を解す技母優り 東山 榮

鬼灯にまつわる母親の思い出を詠い滋味のある一句。素朴な遊びが懐かしい。

潮騒の木立を抜けて群れとんぼ 阿部 治子

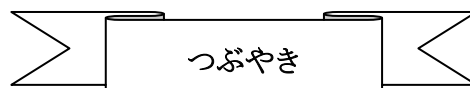
潮騒の響きと群れとんぼの組み合わせがうまい。風景に溶け込んだ作者の姿が浮かぶ。

ほほづきや妻は童女の顔となり 馬場 征彦

何とも言えない温かい雰囲気のある一句。二人が特選に選んだ佳句。

鬼灯やふと母のこと里のこと 河合 和郎

鬼灯の持つイメージは母でありふる里である。そしてタイムスリップした一瞬でもある。



当クラブには同好会が9つあり、それぞれ活発に活躍していますが、一つ解せないのは、スマートに素晴らしい活躍をしている「シニア・ダンディーズ」のクラブに於ける位置付けがはっきりしていないことです。

ET

編集後記

今回は募集の他に、編集を仰せつかりました。初めての仕事ですので、委員長の田中さんと校正の石田さんのご指導を頂き、なんとか格好がつけました。

また、情報委員会に所属して寄稿文の募集係を（3期目）やらせて頂き、投稿下さった方々にはこの機会を借りて厚くお礼申しあげます。ありがとうございました。

担当 東山 榮